

解答

一 問一 A ウ B ア C カ
問二 エ ア
問三 鼻
問四 エ
問五 和真は人を傷つけたりバカにしたりして、みんなで仲良くしようとしておらず、名前の持つ意味と正反対に違つ。

二 問一 A エ B ウ
問二 ウ
問三 エ
問四 ウ
問五 知らないことを読
未知にふれる訓練であつて、意味はわからなくても、いずれ自然にわかつてくると考えられていたから。

三 問一 エ
問二 ウ
問三 エ
問四 ウ
問五 意味がわからないことを気にせず、こどもに一生にこころの糧になると思われるものを読ませていることであるから。
ア

四 問一 オ
問二 力
問三 射〔た〕
問四 ア
問五 重責
問六 ウ
問七 寒暖
問八 イ
問九 敬〔う〕

五 問一 おばあちゃんは、自分の名前の漢字に親の気持ちのこもった意味があることを知つて、感激しています。
同様に、優菜の漢字の意味を知つたことで、優菜を呼ぶ時にも名前が持つ意味を意識するようになつていています。
六 ことが表現されていると考えられます。

解説

一 問一 答者は、「知らないことを読んで、知見をひろめ、こころを大きくしていく」きっかけとしての素読の大切さを「わからないうことを読ませる、というところが、素読のすぐれているところ」「未知にふれる訓練にない」と述べています。意味は「いざれ自然にわかつてくるはずだと考えられました」とあります。

二 問五

筆者は、「知らないことを読んで、知見をひろめ、こころを大きくしていく」きっかけとしての素読の大切さを「わからないうことを読ませる、というところが、素読のすぐれているところ」「未知にふれる訓練にない」と述べています。意味は「いざれ自然にわかつてくるはずだと考えられました」とあります。